

## ○ キワニスドール活動の説明…茂見青少年教育委員長

青少年教育委員長の茂見でございます。今日は「キワニスドールを知っていますか？小児病棟で、子供たちを見守る小さな天使」という題の DVD を上映させていただきます。みなさまご案内の通り、キワニスドールというのは木綿生地にポリエステル綿をつめた、身長約 40 cm 体重約 50 g の、眼も鼻もない非常に素朴な形の手作りのお人形さんです。この人形を入院中の子どもたちに贈るキワニスドール普及活動、これはキワニス日本地区の重点施策になっておりまして、我が広島キワニスクラブも力を入れているプロジェクトです。

この活動の生い立ちをちょっと説明しますと、今から約 20 年前 1988 年にオーストラリアで手作りの人形を小児病棟に寄付するというプロジェクトとしてスタートしたもので、日本では 2001（H13）年に東京キワニスクラブを皮切りに活動が展開され、今年で約 10 年経過したところです。当クラブにおきましては、2003（H15）年に初めて贈呈してから 8 年になろうとしています。この間、広島県下の 20 を超える病院に入院中の子ども達、また看護大学・専門学校の学生達の実習の為に、総数で 1 千個を超える贈呈実績を達成しております。

ところでみなさまの中には、キワニスドールの DVD 上映、今さら何でやるんだ？とおっしゃられる方もおいでのことと思います。この件につきましては、私自身のことで恐縮なんです私が青少年教育委員会に関わらせていただきましたのが、今から 3 年前の 2008（H20）年 10 月に、初めて青少年教育委員会のメンバーになりその時いきなり青少年教育委員会副委員長を仰せつかった時です。しかし恥ずかしながらキワニスドールという言葉は知っておりましたが、その何たるかについては無知でございまして、言ってみれば無関心であったと言っても過言ではなかったと思います。

そういう状況の中で翌年 2009（H21）年の 7 月に、当時河尻会長、吉村青少年教育委員長の時代でしたが、県立広島病院でのキワニスドール贈呈式に私もお供をして参加する機会を得ました。その時に病院の現場で院長先生あるいは看護師さんから、キワニスドールの活用のメリットについて直接お話を伺うことが出来ました。さらにそれ以上に、キワニスドールを前にして目を生き生きと輝かせておる子ども達の様子を目の当たりにしまして、その時初めてキワニスドールの何たるかを再認識したことを記憶しております。と申しますのは、私もキワニスのメンバーにならせていただいて相当になるんですが、私自身それまでにキワニスドールが何なのかを学ぶ機会が全くなかったというのが、言い訳でございますが正直なところです。

これから上映します DVD ですが、非常に分かりやすくまとめてあるものです。東京キワニスクラブが 2005（H17）年に製作され BS 朝日放送でテレビ放映された番組を再編集したもので、上映時間は 20 分です。キワニスドールについてみなさまのご理解の一助になれば幸いです。

(DVD上映 20分)

ご清聴ありがとうございました。いかがだったでしょうか。子ども達、特に入院している子ども達にとってはキワニスドールが自身の分身であって、そのためメンタル面でいろいろと活用できるんだなということをご理解いただけたのではないかと思います。特に入院している子ども達にはストレスがあるわけですが、“遊び”が免疫力を高めるといふようなところも強調されていたと思います。

DVDの中に説明がありましたように、キワニスドール普及活動は3本柱で成り立っております。第1は「導入先の開拓」、第2は「供給体制をつくること」、第3は「PRすること」という風に説明がありましたが、この時間をお借りして我が広島キワニスクラブの状況を簡単にご説明します。

『キワニスドール贈呈先一覧』をご覧の通り2011(H23)年7月末現在で累計贈呈数が1198個となっております。そして今年度1年間贈呈数のトータルが211個です。実はこの211個達成したということで、来月9日(金)千葉で開催されるキワニス日本地区年次総会席上で表彰されることになりました。表彰基準は、会員数×2個以上のドール贈呈ということで、当クラブでは164個以上の贈呈で達成されますが、久方ぶりにこの表彰基準をクリアしたものです。

参考に今年度の導入先の特徴を申し上げますと、「ノボルディスクファーマ(岡山県)」というのがありますが、これは東京クラブが紹介してくれた外資系製薬会社です。実は50個ご希望だったんですが、その時在庫が16個しかなく16個しか贈呈できませんでした(残り34個は東京クラブが贈呈)。それから山陽学園大学看護学部(岡山県)、周東病院(山口県)、呉医療センター(広島県)の3件ですが、これらは大学の先生あるいはお医者さん看護師さんから事務局の方に問い合わせがありました。小児学会ですとかあるいは看護雑誌にキワニスドールが取り上げられておまして、業界においてもいろいろキワニスドールについて関心が持たれておるといふことだと思います。

それから第2の柱であります供給体制についてですが、DVDをご覧の通り東京キワニスクラブでは「素敵な汗をかきませんか」といふことで、ボランティア活動として明快な供給体制が確立しております。会員自ら、あるいはその家族、あるいは学生さんのボランティア、こういうものによって供給体制は盤石になっております。それに対して広島キワニスクラブですが、現状におきましては前委員長の吉村現副会長がご尽力されたんですが、県立広高校、県立海田高校の学生ボランティアによって確保しておまして、だいたい一年で200~250個の供給能力は確保しております。今後は東京クラブのように、このキワニスドールとは何たるかをみなさまご理解いただいた上で、会員のみならず、ご家族のご協力も期待したいところでございます。

それから第3点の「PR」についてちょっとご説明申し上げます。2009(H21)年の7月の県立広島病院、2010(H22)年12月の広島市民病院、2011(H23)年3月の県立広島病院でキワニスドール贈呈式をやっており、広島ホームテレビさん、テレビ新広島

さん、中国新聞さん、NHK広島さんといったメディアにもご協力をいただきましてニュース放映・記事掲載などPRにも尽力いたしております。こういう地道なPR活動も進めていきたいと思っております。ホームテレビさん、TSSさんにおかれましては、戸崎常務、村尾専務の格別のご協力をいただいております、この席であらためて御礼申し上げます。

いずれにしても、当青少年教育委員会におきまして、キワニスドールの意義を踏まえてさらに強かに運動を展開していきたいと思っております。Kiwanis International（国際キワニス）の“Young Children Priority One（子ども最優先）”という精神でいろんな活動を展開しておりますけれど、当クラブのある先輩もおっしゃっておられましたが「キワニスもいろんな活動をやっとするけれども、キワニスドール普及活動これが一番キワニスらしい運動ではないかな」ということでした。私も、キワニスドールの実質的な、子どもにとっての意義を考えていきますと、本当にやりがいのある運動ではないかと思っております。これからも我々尽力していきたいと思っております。みなさま方のご協力をよろしく申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

2011.8.25 第943回例会